

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2374900328		
法人名	愛知三愛福祉会		
事業所名	グループホームあいわ		
所在地	愛知県日進市米野木町987-58		
自己評価作成日	平成29年 1月25日	評価結果市町村受理日	平成29年 5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanji=true&amp;JizyosyoCd=2374900328-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanji=true&amp;JizyosyoCd=2374900328-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 2月 8日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然に囲まれ静かで穏やかな環境の中でのんびりと笑いのある日々を過ごしている。利用者が健康でのびのびと生活できるよう又利用者の新しい可能性や生きる喜びをみつけられるようスタッフと利用者で協力し支えあいながら生活している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

教会を中心とし、複数の法人が運営する高齢者施設や事業所、病院が集まる緑豊かな高台に立地している。木造りの建物と、決して利用者を急がせることなく個々の生活スタイルを尊重した職員の手厚いケアに支えられた暖かみあふれるホームである。  
一人の利用者が毎朝庭の花に水やりをしているうちに新聞配達員と親しくなり、新聞配達員がホームへ訪ねて来たり、一緒に食事に出かけたりするようになったという微笑ましいエピソードがある。  
近隣にある施設間の交流は盛んで、互いの行事に参加したり、職員間でも意見交換の場が定期的に設けられている。総合病院や同法人の特養施設が近隣にあることは、緊急時だけでなく将来に向けての移行を考えるにあたり、家族の安心につながっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有ができるよう昼礼、各委員会等の参加時に理念の唱和を行い、理念に基づいたケアの実践に努めている。	昼礼や各委員会で理念を読み合わせ、談話室や事務室に掲示して浸透を図っている。日常のケアの中で課題が上がる都度話し合い、理念の意味合いを理解してケアに活かせるよう取り組んでいる。	理念を日常のケアに反映していくためにも、具体的な年間目標や個人目標に展開していくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会との連携を図り、地域の行事への参加や地域の社会資源(スーパーや喫茶店)を活用して地域交流を深めている。	複数の福祉施設や病院が集合した地域に立地しており、相互交流は盛んで互いの行事に参加している。夏祭り等の地域行事に参加し、傾聴や音楽、ドッグセラピー等の多様なボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者の受け入れや入居相談などの対応を通じて地域からの協力要請に応じている程度で地域に貢献できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期で会議を行い、日々の活動や入居者の状況を報告しながら、市担当者、民生委員、自治区長などと意見交換して適時サービスの検討を行っている。	区長や民生委員、行政が参加して年6回開催し、ホームの現状報告や地域の情報収集を行っている。離設について地域代表から出た意見を職員は新しい視点と感じ、取り組みに活かせるよう検討を始めた。	ホームの目標達成計画をメンバーに開示し、進捗状況を報告して多方向からの協力を得ながらホームの運営に活かされる取り組みを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で、事業所の状況を詳しく報告して実情を把握して頂きながら協力関係を築いている。	市の事業者連絡会に参加し、地域包括支援センターの研修に参加したり、内部研修の講師を依頼したりしている。運営推進会議には、市・福祉課職員と地域包括支援センター職員の両者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中常時開錠されている。法人で身体拘束について研修を行い、情報共有と意見交換しながら、日々適切なケアができるよう努めている。	帰宅願望の強い利用者の気持ちを汲み取り、普段の散歩や外出を多くする等、個々に合った対応に努めている。管理者の現場での指導に加え、法人や行政主催の研修にも参加し、ミーティングでは具体的な事例をもって話し合い、理解を深めるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で行う研修に参加し、理解を深めながら、職員間で注意し合いながら、適時指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護関連について学ぶ機会が設定されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、わかりやすい説明に留意している。質問も随時受け付けながら丁寧な説明に心がけている。制度改定時も事前に説明し、ご家族の不安のないよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時、入居者の近況報告をしながら情報交換を行い関係を密にとりながら何でも話しやすい関係となるよう努めている。契約書にある外部苦情窓口の説明もしている。	おこづかいの入金や衣替え等、家族が訪問する機会を設け、その都度家族意見の聞き取りを行って関係が深まるよう取り組んでいる。ボランティアで、利用者と工作等で時間を過ごしてくれる家族もいる。	従来と比較し、運営推進会議への不参加等、家族が遠のきがちになっていることがうかがわれる。家族会の活用や行事を通じて関係が深まるような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時等で意見、要望があれば随時受け付け、必要があればミーティングで検討して職員のアイデアを反映させている。	概ね月1回のミーティングは、ケアカンファレンスや勉強会を中心に行い、朝夕の申し送りや昼礼時に業務について話し合いを行っている。出された意見は皆で検討し、速やかに実行できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人施設長、事務長による面談により職員個々の就業環境の整備が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修と各種の外部研修に随時参加しながら、職員の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や包括支援センターが行う交流会に参加して交流する機会を作り、連携を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の情報をできる限り詳しく聞き取り、入居時ご本人の負担が少しでも少なくなるよう環境整備に努めている。入居後も積極的な介入により、不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期は、特に職員から積極的に声をかけ質問や困っていることなどを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階から入居検討を行いながら入居に備え、入居したら必要に応じて本人、家族に聞き取りを行い、サービス調整をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを大切に考え、本人の活動を支える。本人が気分良く活動できるよう関係作りに職員は努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にもできる範囲で面会をお願いして家族としての関係を維持してもらいながら、面会時にご本人の情報提供をして家族、職員が共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の面談などで本人のこれまでの人生について聞き取りを行っているので、入居してもできる限りこれまでの交流などが継続できるよう支援している。	友人の来訪、年賀状や暑中見舞いのやりとり、一時帰宅、礼拝等の暮らしの継続が支援されている。かつての職場であるデパートへ職員と出かけたり、馴染みの店で好みとしていた食事を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	適時職員が入居者同士の間に入り、適当な関係できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設として特別な取組みはないが、退去した入居者家族の施設訪問があったり、施設内外で入居者、家族に会えば挨拶などしながら近況報告している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の入居者の発言や行動等から、入居者の気持ちや思いなどを読み取るように努め、適時ご家族などにも聞きながら入居者の心の奥にしまわれた気持ちに少しでも近づけるよう職員間で話し合っている。	利用者と職員の関わり方が大切と考えており、行動の理由を考えたり問いかけで言葉を引き出したりと、様々に取り組んでいる。申し送りやミーティングで情報共有し、話し合って思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で、本人、家族などから聞き取りを行い施設でどんな生活を望んでいるかを把握し、入居後もより良い暮らしができるよう、適時関係者から再度聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や申し送り、ミーティングなどを通じて職員間で情報交換しながら、入居者の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや申し送りなどで本人の状態把握、家族面会時に家族の意向を聞き、ケアの検討を行ってケアプランを作成している。	計画作成担当者が中心となってモニタリングを行い、半年毎と状態の変化時に計画の見直しを行っている。月1回のミーティング時に職員意見を集約し、家族意見を取り入れながら計画立案している。	個別ケアを充実させるうえで利用者の意向にも着目し、具体的な目標設定を望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや日々の記録、申し送り等を活用しながら、職員間で情報を共有して毎日のケアが適切に行われているか確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にとって適切なケア、サービスとは何かを日々考えながら支援している。個々の入居者に適当なケアであれば、施設としてどうかよりも本人の思いを大切に考え、できる範囲でケアの提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人のこれまでの生活の中で外部と交流してきたことや、施設で豊かな暮らしをするために必要となる様々な資源(喫茶店、スーパー、公園等)をできる限り活用できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、かかりつけ医についての説明をして、家族の希望を優先する形でかかりつけ医を決定している。希望があれば、認知症専門医、歯科の紹介も行っている。	隣接する総合病院が協力医となっており、月1～2回の通院を支援している。必要に応じて近隣の同法人の施設へ往診している認知症専門医や歯科医を受診し、その他の専門科は家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は在籍していないため、適時法人内の看護師に相談したり、薬剤師の相談などをして入居者の適切な受診につなげている。現在、医療連携体制加算取得に向けて準備中である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月1回「虹の会」という近隣施設の看護連絡会に参加して医療機関との連携をとっている。入退院の対応もそれを基に行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態をみながら介護認定の時などに家族に話をしている。今後、医療連携体制加算取得に向けて書面にて説明していく予定となっている。	入居時に、「ホームでの共同生活が困難になった時点で他施設への移行を検討する」との方針を伝え、必要な時期に話し合いを行っている。近隣にあり雰囲気が似ている同法人内の施設への移行が中心だが、他施設や医療を含め得心できる移行先を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故対応については内部研修、マニュアルの整備などにより対応しているが、不十分であるため救急救命講習などへの参加を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人合同で定期的に防災訓練を行っている。消防署員立ち合いの訓練もあり、適時指導も頂いている。	防災委員を中心に年2～3回避難訓練を行っている。1回は消防署の立会いがあり、火災や地震、夜間と様々に想定し、通報、消火、避難誘導と実践的な訓練が行われている。飲料水や保存食の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応について、日々職員間で注意しあいながら互いに気をつけている。	居室の内鍵等、利用者の意思を尊重している。利用者は年長者であることを意識し、互いに心地よい関係づくりを心がけ、存在を大切にしている。待つゆとりの気持ちを持ち、言葉使い等基本的な接遇は徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との毎日の関わりの中で、入居者に選択してもらえるような声かけとなるように気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者の生活習慣を尊重したケアを行っているが、その時その時を大切に考え、入居者が今何を求めているか、考えながらケアしたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時などは忙しくても、しっかり整容しておしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに応じて、できること、したいことを大切に考え、参加を促し、職員と協力しながら活動している。	買い出しや調理の手伝い、盛り付け、片付けと、利用者の様々な活躍がある。食堂と談話室に分かれ、気の合う利用者同士で会話を楽しみながら賑やかな食事風景がある。好物を食べに出かける企画外食もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態、嗜好などを考えながら、楽しい食事ができるように気をつけて食事の提供をしている。体重測定や健康状態に留意しながら、野菜中心の献立を立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による月1回の口腔ケアチェックを受けながら、個々の入居者の歯の状態や口腔ケアについての指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄シートを活用して個々の入居者の排泄間隔などの形態を把握して適切な支援を行っている。できる限り本人に負担のない支援を考えながらケアしている。	声掛けや時間ごとの誘導、使用するパッドの大きさ等、利用者個々に合わせた支援をしている。夜間も声かけや誘導をしたり、ポータブルトイレを活用する等、職員間で話し合っ状態に合わせた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や活動量、食事内容、服薬内容、本人の体質など、総合的に検討しながら、適切な支援に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の好みやその時の気分に合わせながら、本人が入浴したいと思う時に入浴をお誘いしている。ほぼ毎日入浴する人から週1、2回入浴する人まで本人の好みに合わせた支援をしている。	ひのき風呂のある浴室の窓からは、緑豊かな森の風景が見える。夕食後に入浴時間を設定し、個々の希望に沿って毎日入る方から週1回程度の方まである。仲よし同士、二人で入浴を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や夜間の入浴など生活リズムを大切にしながら、安眠につながるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、副作用などの把握をしながら、特に薬の変更時には服薬後の経過観察に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々に楽しくできることが違うので、できる限り本人の嗜好にあった支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その時を大切に支援に努めている。職員体制に余裕があれば、外出なども可能な限り本人の希望に答えられるようにしている。	利用者の重度化に伴い、全員での外出が困難になってきている。しかし、散歩や買い物、喫茶店等の個別外出に注力し、誕生日には希望の場所への外出を支援している。季節を感じる花見やドライブには家族が参加することもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、預かり金として施設管理となっており、職員が入出金を管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、本人の希望に応えられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症高齢者にとって大切なのは環境だと考え、入居者にとって居心地の良い空間となるよう食堂や居間、居室の整備をしている。特に、音、光、色などに気を配りながら、季節感なども大切に考え掲示物を考えている。	ウッドデッキではバーベキューやお茶を楽しみ、花の手入れや日向ぼっこ、くつろぎの空間となっている。談話室には特技を活かして利用者が活けた花が飾られ、一人ひとりが心地よく過ごせるよう職員が間に入って声をかける等、穏やかな空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が好きな場所で過ごせるように、食堂、居間、居室など過ごしたい場所で自由な活動をしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の面談の際に、居室のアレンジについて説明して居心地の良い住環境となるように家族、本人にお願いしている。	居室入口の横には小窓があり、プライバシーを尊重した声かけや安全確認に役立っている。使い込まれた筆筒や茶道具、自作の小物、大切な聖書やペットの写真と、これまでの生活を感じる品が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りなど安全に配慮しながら、できる限り自由に活動できるよう支援している。本人に見やすい掲示だったり、館内の障害物の除去、履物の選択や服薬の調整など様々な視点から入居者の活動をサポートしている。		